

一

果てなき一本道が在りました。
蟻が一匹歩いていますが、
空腹と疲労に跛を引いて歩いてます、
けれど、お眼々は理想に燃えて元気です。
一本道の向うには綺麗な虹が光っています。

二

彼は強く信じています。
虹の下には御殿が在って、
五色の花が咲き香い、小鳥がピアノを弾きながら、
泉の金魚とお話してる。
壺の中には妹の、好きな蜂蜜ある事を。

三

一本道に夜が訊ねました。
誰が撞くのか釣鐘草、
故郷の歌によく似ています。
草露飲んで泣きながら、
仰げば月がゆがんで見える。

四

一本道の森の上。
今朝も綺麗な虹が出た、
彼は高く叫びつゝ、
総てを忘れ進みます。
一本道はまだ遠い。

五

あれから何回木の葉が散ったでしょう。
蟻は路上で斃にました、
その跡には勿忘の花が咲きました。
お月様が見て笑っています。

六

一本道は延々と。
十万億土に続くでしょう、
一本道を行く者は、
久遠の幸を得るでしょう、
明日は誰が歩くでしょう。